

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

各試験液の濃度は開始時において設定値の±20%以内であったため、下記の生長阻害濃度の算出には設定値を採用した。なお、暴露72時間の設定値に対する割合は101~106 %であった。

2) 生長曲線下面積の比較による阻害濃度

50%生長阻害濃度 EbC50 (0-72) : 90.2 mg/L (95%信頼区間 : 74.0~110 mg/L)

無影響濃度 NOECb (0-72) : 65.2 mg/L

3) 生長速度の比較による阻害濃度

50%生長阻害濃度 ErC50 (24-48) : 96.9 mg/L (95%信頼区間 : 算出不可能)

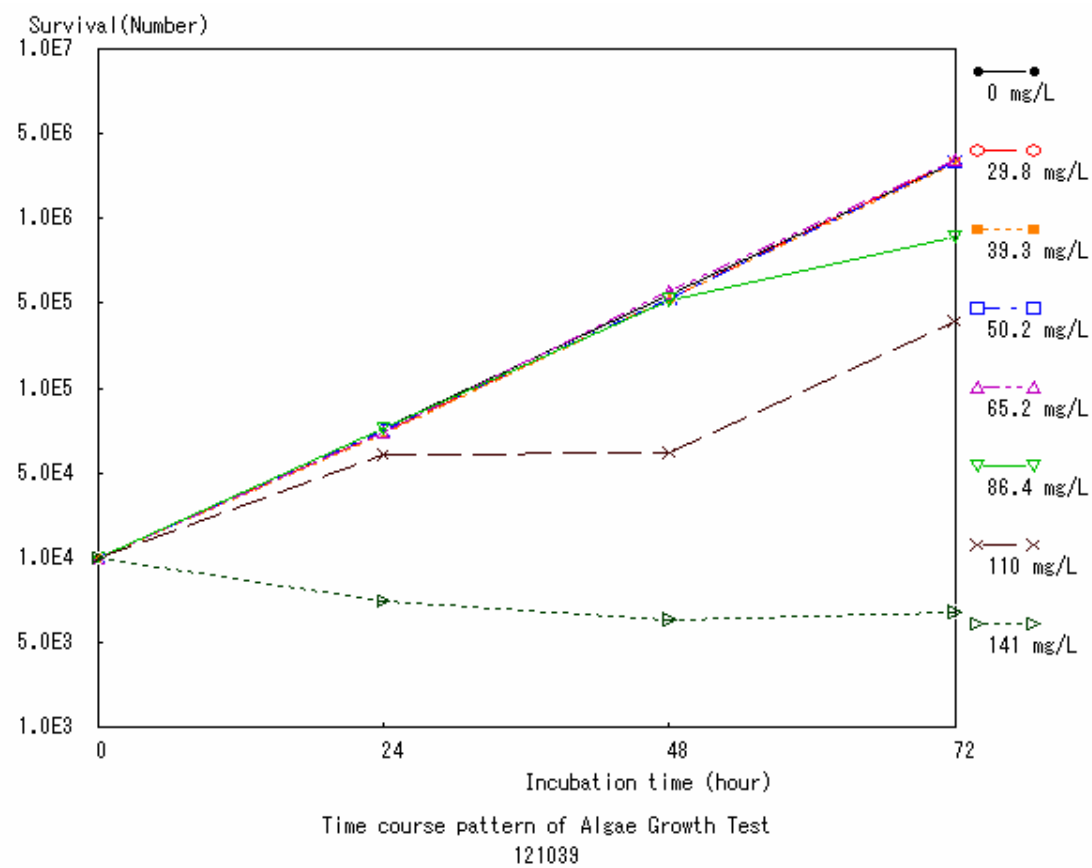
無影響濃度 NOECr (24-48) : 86.4 mg/L

50%生長阻害濃度 ErC50 (24-72) : 101 mg/L (95%信頼区間 : 84.7~120 mg/L)

無影響濃度 NOECr (24-72) : 65.2 mg/L

2-メチル-5-ニトロベンゼンスルホン酸 (Cas.121-03-9)

生長曲線



毒性値

- ・0-72hErC₅₀:120 mg/L
- ・0-72hNOECr:65 mg/L

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

5-ニトロ-o-トルエンスルホン酸のオオミジンコ (*Daphnia magna*)に対する急性遊泳阻害試験

試験番号

7 B 7 4 4 G

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類，急性遊泳阻害試験および繁殖試験」（1984年）に準拠して実施した。

- 1)被験物質： 5-ニトロ-o-トルエンスルホン酸
- 2)暴露方式： 止水式
- 3)供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4)暴露期間： 48時間
- 5)試験濃度(設定値)： 対照区, 78.5, 104, 137, 179および 236 mg/L (公比 1.3)
- 6)試験液量： 1 容器 (連) に付き 100 mL
- 7)連数： 4 容器 (連) / 濃度区
- 8)供試生物数： 20頭 / 濃度区 (1 連に付き 5 頭)
- 9)試験温度： 20±1℃
- 10)照明： 16時間明 / 8時間暗
- 11)被験物質の分析： H P L C 法

結 果

1)試験液中の被験物質濃度

被験物質の実測濃度がすべて設定値の±20%以内であったので、各影響濃度の算出には設定値を採用した。

2)24 時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EiC50) : 147 mg/L (95%信頼限界 : 137~179 mg/L)

最大無作用濃度(NOECi) : 104 mg/L

100%阻害最低濃度 : 179 mg/L

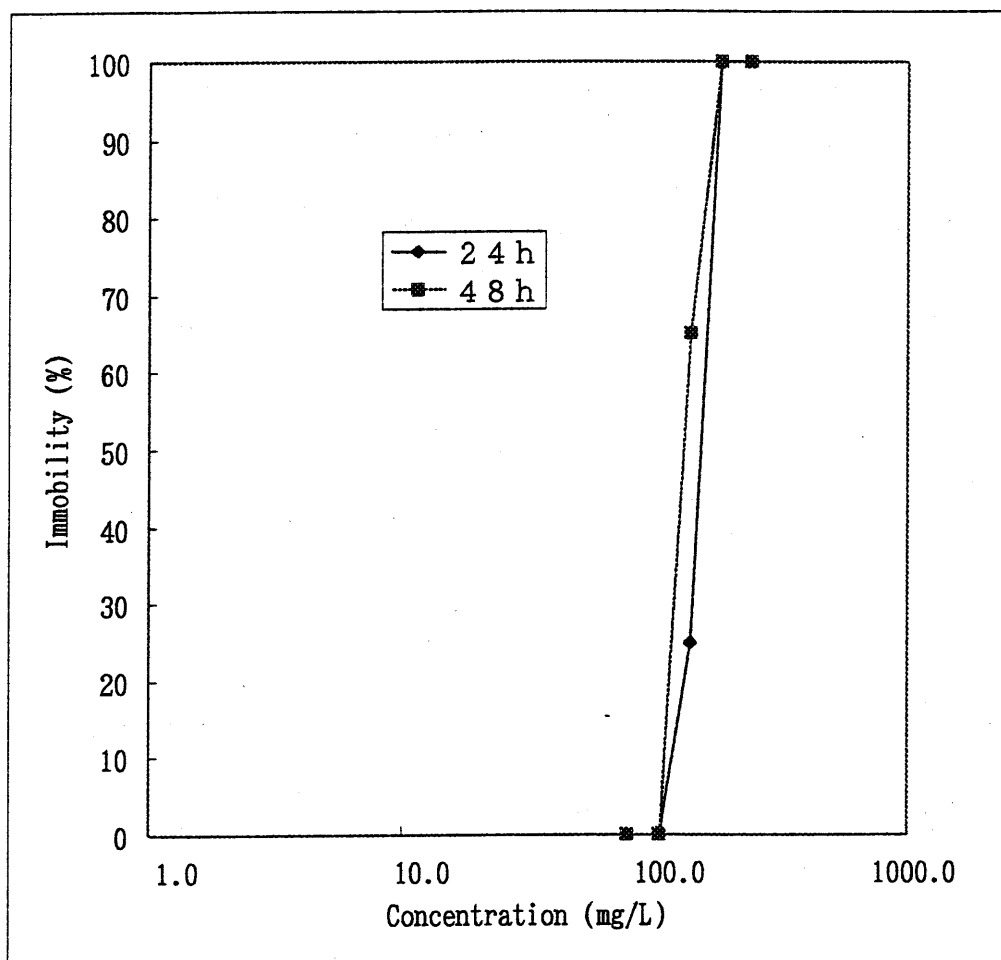
3)48 時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EiC50) : 130 mg/L (95%信頼限界 : 104~179 mg/L)

最大無作用濃度(NOECi) : 104 mg/L

100%阻害最低濃度 : 179 mg/L

Figure 1 Concentration-Immobilization Curve for a 48-Hour *Daphnia magna* Immobilization Test



要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

5-ニトロ-o-トルエンスルホン酸のオオミジンコ (*Daphnia magna*)に対する繁殖阻害試験

試験番号

7 B 7 6 2 G

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」（1984年4月採択）の改訂版であるガイドライン No.211「オオミジンコ繁殖試験」（1997年4月提案）に準拠して実施した。

- 1)被験物質： 5-ニトロ-o-トルエンスルホン酸
- 2)暴露方式： 半止水式（週に3回、試験液の全量を交換）
- 3)供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4)暴露期間： 21日間
- 5)試験濃度(設定値)： 対照区, 2.36, 6.28, 16.5, 44.0, 118 mg/L (公比 2.7)
- 6)試験液量： 1 容器 (連) に付き 80 mL
- 7)連数： 10容器 (連) /濃度区
- 8)供試生物数： 10頭/濃度区 (1 連に付き 1 頭)
- 9)試験温度： 20±1℃
- 10)照明： 16時間明/8時間暗
- 11)被験物質の分析： H P L C法